

シリーズ《生き続ける文化財》：『園城寺（三井寺）』と僧兵

「山法師」をご存じでしょうか。延暦寺の僧兵がそのように呼ばれました。僧兵は平安時代末期には強力な武装集団となり、朝廷や摂関家に対して強訴を繰り返しました。白川法皇が天下三不如の一つとして「山法師」を挙げたほど、僧兵が朝廷の不安要素であったことがうかがえます。その僧兵に「寺法師」と呼ばれる集団もありました。それが三井寺の僧兵です。三井寺は10世紀末に比叡山延暦寺から分離した天台寺門宗の総本山ですので、その歴史を見て歩きましょう。

《ご紹介》

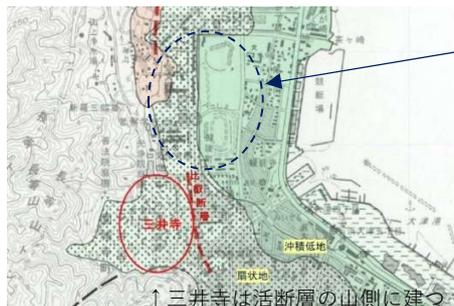
平安京遷都を機に日本天台宗の基礎をつくった延暦寺は、10世紀後期には現在のように東塔、西塔、横川の3地域を中心に堂舎が整備され、隆盛を築いていった。しかし一方で、堂舎や住僧が急激に増え寺内の雑務に従事する者が求められ、しかも同寺の貴族化・荘園領主化が進むなかで、修学を専らとする学侶に対し堂衆と呼ばれる下級僧侶が増加し、これが寺領などから集められた百姓の兵士とともに組織化され、僧兵の母体となっていった。

僧兵は明治時代の造語であり、かつては堂衆・大衆・悪僧などと呼ばれたが、刀杖を持って行動した南都北嶺（奈良の諸寺と延暦寺）の武装集団をいう。白河法皇が「天下三不如意」の一つに「山法師（延暦寺の僧兵）」をあげたように、院政期にはその行動が重大な社会問題となった。ときには日吉社の神輿を押し立て朝廷に対し強訴を行ったりもした。

このような僧兵の悪行は、延暦寺の宗派内対立でも行われた。それが延暦寺（山門）と園城寺（寺門）の抗争である。延暦寺は山法師、園城寺は寺法師と呼ばれ、山門・寺門の対立抗争の中で武装闘争の先兵となっていたのである。

園城寺には靈鐘堂に弁慶の引き摺り鐘が展示されている。比叡山の僧兵だった弁慶が、同寺との抗争で総高199センチのこの鐘を奪い、比叡山へ引き摺り上げて撞くと、鐘の音が「イノー（往のう）」と聞こえたため谷底へ投げ捨てたという逸話が寺に伝わっている。

➤ 三井寺周辺の地図（※国土地理院地図）



三井寺の境内の一部は明治政府により陸軍用地として接収され、練兵場となったが、現在は皇子山総合運動公園として利用されている

【図1】活断層図（現在）



【図2】仮製図（1889（明治22）年）

夕時雨
「往のう」と聞ゆ
三井の鐘

↓ 弁慶の引き摺り鐘



↓ 閼伽井屋



山門・寺門の抗争を象徴するような話だが、鐘に付いた傷跡や割れ目はその時のものという。

園城寺は、667年に近江大津京を開いた天智天皇の孫・大友与多王が、父の霊を弔うため寺を創建し、天武天皇から「園城」という勅額を賜ったことがはじまりとされる。境内には天智・天武・持統の三天皇の産湯に用いられたという霊泉があり、「御井の寺」といわれたことから三井寺と呼ばれるようになった。この霊泉は金堂西側にある閼伽井屋から湧き出す清水とされる。

園城寺は平安前期には衰退してしまうが、それを復興したのが円珍(814~91)である。円珍は空海の姪を母とし、延暦寺に入って初代天台座主義真の弟子となった。853(仁寿3)年、唐に渡って多くの經典類を日本にもたらし、密教を修めて天台密教の充実・普及につとめた。862(貞観4)年、園城寺の別当となった円珍は天台密教の道場として再興し、6年後、第5代天台座主に任命されると、同寺が円珍に下賜され、唐院を建立して經典類の一切を移転させた。こうして園城寺は円珍とその門流の拠点となっていった。

円珍の死後、延暦寺では最澄の法流が円仁派と円珍派とに分れ、天台座主職など人事をめぐる対立が激化し、両派の僧兵が激突した。993(正暦4)年、闘争に敗れた円珍派は山を下りて園城寺に入り、延暦寺を山門、園城寺を寺門と称して天台宗は二分された。この対立抗争で園城寺は延暦寺による焼き討ちをたびたび受け、中世末期までに全焼7回を含む大規模火災が10回にも上るといふ。

1595(文禄4)年、園城寺は豊臣秀吉から突如闕所(けっしょ)を命じられた。この闕所令により堂塔伽藍の多くは破棄され、寺領もすべて没収されてしまった。しかし秀吉が他界した1598(慶長3)年の闕所令解禁とともに、本格的な再建が開始された。まず智証大師円珍を祀る唐院が復興され、寺領4千3百余石も安堵された。翌年、和様による金堂が秀吉の正室北政所の寄進により着手され、一山の学問所である勸学院も2年後に再建された。徳川家康も1600(慶長5)年から翌年にかけて伏見城内の三重塔と仁王門(大門)を移築している。享保年間(1716~36)になると、境内一円の大規模な整備が進められ、南院別所の近松寺本堂が建立された。再建事業の最後を飾るのが西国三十三所霊場で知られる観音堂で、1690(元禄3)年に建立されている。

➤ 三井寺

↓大門(仁王門)



↓金堂



↓南院札所伽藍



↓鐘楼



↓唐院三重塔



兄の罪
妻が庇うか
豊臣家

三井寺金堂にて



↓夜桜



現在、三井寺には慶長年間に再建された金堂・勸学院客殿・光浄院客殿、そして足利尊氏が再建した新羅善神堂の4棟の国宝と、家康が伏見城から移築した三重塔や大門(仁王門)など11の重要文化財建造物が建っている。明治維新により北院境内が陸軍用地として接收され、新羅善神堂と法明院を残し他のすべての僧房が廃絶させられてしまった。それでも約35万坪に及ぶ境内には、数多くの堂塔伽藍が建ち並び、多くの参詣者が訪れる。春には長等山を桜の花が埋め尽くし、湖国を代表する景勝地となっている。